



秋には草紅葉が一面に



夏にはヤナギランの群生も



様々な動植物が命を育む



地域の人々の憩いの場としても愛されている



苧安なびく天空の草原

はさみやま “鋏山”



藤生地区の二つの宝

受け継がれし里山と伝統

受け継がれてきた山焼き

鋏山の山焼きは町の重要無形文化財に指定されており、地域住民によって300年以上受け継がれてきました。

毎年5月の連休に行われる、この山焼きにより鋏山の草原が維持され、独自の生態系を保全されてきました。

山焼きによりできた灰が土壤にミネラル分を補給、熱による蒸発で土を柔らかくします。枯草がなくなることで、地表に陽光が射し込みやすくなることで、春の芽吹きが促進されます。また、害虫の発生やつる性植物の繁茂を防ぎます。



火柱となって燃え広がる炎



昨年3月全国草原の里市町村連絡協議会による「未来に残したい草原の里100選」に選ばれた藤生区にある鋏山。
鋏山の美しい草原の風景や、300年以上にわたり継承されてきた山焼きが評価され、県内からは初の選定となりました。
今号では、地域住民が受け継ぎ守ってきた鋏山とその周辺の自然についてご紹介します。



山焼き直後の景色（2週間後には草原が広がる）

鋏山の概要

鋏山の標高は1,150mで2つのピーク(山頂)があり、その姿から鋏山と呼ばれるようになったと言われています。

面積は、約90ヘクタール(東京ドーム19個分)で、そのほとんどを草原が占めています。

また、日本最大級の苧安草原や貴重な植物・昆虫が生息しており、独自の生態系を維持されていることから、大学等の研究機関による調査・研究も行われています。

山に登れば眼下には、四季折々の素晴らしい景色を望むことができ、遠くには那須連峰を望むことができます。



一面に広がる苧安

② 苧安とは

日当たりのよい場所に生息するイネ科の植物で、茅葺き屋根の材料、黄色染料として利用されるほか、薬用にも用いられています。



藤生区長
星 明則さん
あきのり

**未来に残したい草原の
里への選定について**

先祖代々守ってきた鉢山が評価されたこと、多くの人に知ってもらえる機会ができたことをとても嬉しく思っています。

また、授与式の会場で多くの人に驚かされたことがあります。それは、300年以上にわたり事故等がなく、山焼きを行ってきたことです。

これは、山焼きの知識と技術が脈々と受け継がれてきた証で、とても誇らしかったです。

これからも人と自然の関わりの中で培われてきた知識や技術、人々の想いを共有し、次世代へ受け継いでいきたいと思っています。

課題とこれからへの期待

課題は、草原の維持管理と担い手不足です。広大な敷地の山焼きや刈り払いは、多くの人員が必要となりますが、地区の人口減少に伴い、年々、人手が減っているのが現状です。

そのため、刈り払いには、親交のある大学生たちの協力を得るなど、この地域に関わってくれる人を増やし、活動を行っています。

今回の選定を機に期待していることもあります。

1つ目は、交流人口の増加です。町内外の方に鉢山や男杉女杉を訪れていただければと考えています。

2つ目は、苜蓿の活用です。生息しているものの、ほとんど活用されていませんので、専門家等の意見を参考にしながら、活用方法を模索していきます。

3つ目は、美しい景観の活用です。ロケ地などに使用してもらえようPRしていきたいです。

草原がある里山は、観光資源としての価値や二酸化炭素の固定能力が高いなど、価値が見直されています。そのことを町の誇りとして皆さんに認知していただければと思っています。



山頂まで広がる草原



親から子へ受け継がれる



夏場に行われる刈り払い



女杉

胸高周囲 約7.6m 樹 高 約37m
樹 齢 500年以上

男杉

胸高周囲 約7.6m 樹 高 約37m
樹 齢 500年以上

田島地域現存で
屈指の巨木・古杉

福島県緑の文化財・町指定天然記念物で、藤生熊野神社の御神木である男杉女杉。

神社本殿南側の少し離れた斜面に堂々とたたずむ1本の大杉が男杉です。男杉と同じ斜面で30メートル程度離れた本殿の裏手にあり、合体木で幹からは気根を垂らしているのが女杉です。

樹齢については文献等に残っていないため明確ではないものの、社殿が建築された当時から存在していると仮定すると、500年以上と考えられています。

いずれも天然杉であり、周囲にも胸高幹囲4mを越える大木が十数本あることから、地域住民が代々、社祠全体を保護してきたことが伺えます。

近くに立つとその姿は圧巻で、樹幹の雄大さから男杉、しとやかな姿から女杉と名付けられたと言われています。



男杉の分厚い樹皮



大木に囲まれている社殿

1,500円で取り放題！？鉢山にあるワラビ園

鉢山には、広大な草原の中に多くの山菜も生息しており、毎年、ワラビ園として解放されています。

◆山菜等の種類

ワラビ、ウド、ミズナ、ウルイ、ゼンマイ、フキ、こごみ、しおで(山アスパラ) など

◆開園期間 5月下旬～7月上旬

◆営業時間 午前8時～正午まで

◆料金 1,500円

◆問合せ 商工観光課 観光交流係

◆電話 0241-62-6200

